

つなぐ命

産婦人科・小児科医師からの
メッセージ



●77●

梅毒とは性的な接触などによってうつる性感染症で、原因は梅毒トレポネーマという病原菌です。異性間、同性間を問わず、主に性的接触で粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。

近年、国内外ともに著しく患者が増加し、15歳から35歳の若い女性に多いため、妊婦さんの梅毒も増えていきます。男性では20〜50代での感染が増加しています。

典型的な症状が出ることは少なく、梅毒の初期は自覚症状がないことも多いため、診断には採血して血清学的診断を受ける必要があります。

妊娠中の女性が感染する

妊娠と梅毒

と、無治療の場合では40%が流産や死産となり、生まれた場合でも、肝臓や目、耳に先天性の障害を引き起こす「先天梅毒」が危惧されます。梅毒トレポネーマは胎盤を通過するので、60〜80%の胎児に感染します。

しかし、治療は難しくなく、ペニシリン系の抗生物質の内服が標準的です。外国ではペニシリンGの注射が第1選択ですが、国内ではペニシリンによる重

早期の診断、治療で安心

篤なアレルギー症状が問題視されて使用できなくなっているについて議論が続いています。国内では、妊娠初期の第

日本の梅毒患者の報告総数



1回妊婦健診で公費負担による梅毒血清反応を全例検査しているの、見つければ治療できます。

問題は、きちんと妊婦健診を受けていない妊婦さんの場合や、妊娠中に夫がほかの不特定多数の女性と性的接触をもつて梅毒にかかった場合など、初回妊婦健診の後に梅毒に感染すると、きちんと診断できない場合があることです。

これから妊娠したいと希望しているご夫婦や妊娠中の方は、不特定多数との性的接触はしないこと、妊娠したらしっかりと健診を受けることが大切です。もし、妊婦さんが梅毒にかかって、早期にしっかりと診断・治療すれば妊婦さんも赤ちゃんも大丈夫です。

茅原 保

(産科婦人科茅原クリニック院長・三条市)

第4月曜掲載